

# The relationship between mental-health status and work-related factors in male Japanese overseas employees

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Suzuki, Hiroyuki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/28513">http://hdl.handle.net/2297/28513</a>

平成 22 年 2 月 16 日

## 博士論文審査結果報告書

報告番号 医博甲第2102号  
学籍番号 0727022011  
氏名 鈴木寛之

論文審査員

主査(教授) 長谷川雅美

副査(教授) 城戸 照彦

副査(教授) 塚崎 恵子



論文題名 The relationship between mental-health status and work-related factors in male Japanese overseas employees (日本人男性海外勤務者の精神的健康度と職業関連要因との関係)

### 論文審査結果

【論文内容の要旨】海外勤務者と日本国内勤務者の精神的健康度の違いと海外勤務者の精神的健康度と職業関連要因との関係を明らかにするために、同一の金属製品製造業に勤務する男性海外勤務者 450 名と男性日本国内勤務者 683 名を対象に自記式質問紙調査を行った。その結果、海外勤務者の 50%が 1 日 12 時間以上就労し、37%が月 80 時間以上残業していた。また 1 ヶ月の休日日数が 7 日以下の割合は、50%を超えていた。海外勤務者と日本国内勤務者の精神的健康度の比較では、34-39 歳において海外勤務者の精神的健康度は日本国内より悪かった。一方、40 代と 50 代では海外勤務者の方が良好であった。海外を 4 地域に分けた場合、日本国内よりも東アジアの精神的健康度は不良であり、ヨーロッパは良好であった。

海外勤務者の精神的健康度に関連する要因は、地域別ではヨーロッパに対し東アジア、東南・南アジア、北アメリカが、職種では管理職に対しエンジニアが、労働時間では 10-11 時間未満に対し 12 時間以上が、休日日数では 8 日以上に対し 7 日以下が抽出された。以上より海外勤務者の精神保健対策は、地域別ではアジア圏特に東アジア、職種ではエンジニアを中心に組み込んでいく必要がある。また実労働時間が 12 時間を超える者や休日日数が 7 日以下の者には、就労時間の制限や休日日数を 8 日以上確保することも対策として考えられた。

【審査結果の要旨】海外勤務者の精神保健対策を講じる上で、異文化ストレスという海外の生活環境や習慣の違い、現地人スタッフとの関係が重要とされてきた。赴任地域や職種による実態について今後明らかにしていく必要があるものの、本研究結果から労働時間などの職業関連要因についても同様に着目する必要性について提言できたことは意義がある。審査会では対象企業の特徴や海外と日本国内の職業関連要因の違い、外的妥当性等について質疑が交わされた。

以上より本研究は、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。